

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 4 区分
 【発行日】平成 16 年 9 月 24 日 (2004.9.24)

【公開番号】特開 2001-10230 (P2001-10230A)
 【公開日】平成 13 年 1 月 16 日 (2001.1.16)
 【出願番号】特願 平 11-188809
 【国際特許分類第 7 版】
 B 4 1 M 5/26
 【F I】
 B 4 1 M 5/18 E

【手続補正書】
 【提出日】平成 15 年 9 月 8 日 (2003.9.8)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

支持体上に、加熱時反応して発色する感熱記録層を有し、更にその上に感熱記録層の側から高分子化合物を主成分とする第 1 および第 2 の保護層を有する感熱記録材料において、第 2 の保護層が J I S - K - 5 1 0 1 によって測定した吸油量が $200 \text{ ml} / 100 \text{ g}$ 以上である多孔性顔料を含有することを特徴とする感熱記録材料。

【請求項 2】
 該第 2 の保護層に含有される多孔性顔料が合成非晶質シリカであることを特徴とする請求項 1 記載の感熱記録材料。

【請求項 3】
 該第 1 の保護層の主成分である高分子化合物がポリビニルアルコールであることを特徴とする請求項 1 または 2 記載の感熱記録材料。

【請求項 4】
 該第 2 の保護層の主成分である高分子化合物が水分散性高分子化合物であることを特徴とする請求項 3 記載の感熱記録材料。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 7 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 7 7】

以上の配合で調整した第 2 の保護層形成用塗工液を第 1 の保護層上に塗工量 $2 \text{ g} / \text{m}^2$ になるように塗工、乾燥、スーパーカレンダー処理し、感熱記録材料を得た。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 8 2
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 8 2】

実施例 1 において、第 1 の保護層に用いたポリビニルアルコール水溶液を 40% ポリ酢酸ビニル水性分散液 25 部に変更した以外は実施例 1 と全く同様にして感熱記録材料を得た。

。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００８７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００８７】

比較例３

実施例１において、第２の保護層に用いたウレタン樹脂水分散液を４０％ポリ酢酸ビニル水性分散液２５部に変更し、分散液１を分散液７に変更した以外は実施例１と全く同様にして感熱記録材料を得た。

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００９３

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００９３】

（５）記録走行性

得られた感熱記録材料をＧ３感熱ファクシミリ装置（松下電器製、ＫＸ－ＰＷ３ＴＡ）を用いて印字した。画像電子学会ＮＯ．３ファクシミリチャートを送画し、スティッキング（印字部の横段状の白抜け）の発生状況を目視で判定した。評価は以下の指標に従った。

：スティッキングが殆どなく、良好である。

○：スティッキングが若干認められるが、実用上問題ない。

：スティッキングが認められるが、実用可能である。

×：スティッキングが多く認められ、実用不可である。